

新しい地方経済・生活環境創生のための 10のファクトチェック

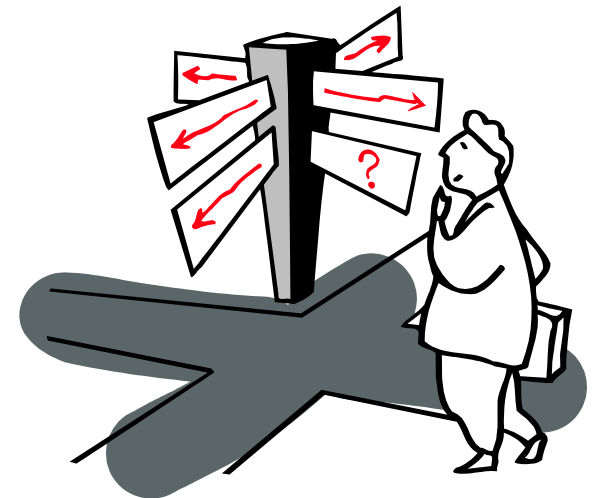
2025年4月18日

株式会社 日本総合研究所 主席研究員

株式会社 日本政策投資銀行 地域企画部 特任顧問

Fact Finder & Structure Perceiver
事実発見&構造把握業

もたに
藻谷浩介 kosuke@motani.com



5W1Hで最も重要なのはWHAT

WHY

なぜ？

だめなフシゼンは
WHY(理由)を
延々と語り、突然
HOWに話が飛ぶ

WHEN

いつ？

WHERE

どこで？

HOWやWHYの
前に、こちら。
実態は如何なる
ことになっている
のか、現実を
把握しよう。

WHAT

何が起きてる？

WHO

誰が？

HOW

どう対処？

日本人はこれが
とにかく大好き。
実態は何なのか
よく確認せずに、
対処を知りたいがる。
＝手段の目的化

新しい地方経済・生活環境創生のための ファクトチェック① 日本の輸出

90年（バブル最盛期）と、24年（昨年）を比べると、日本の輸出額（ドル）は？

@財務省 国際収支状況

ヒント:

× 半減以下

× 同水準

③ 倍増以上

① 輸出は「(株)日本の売上」のようなものです

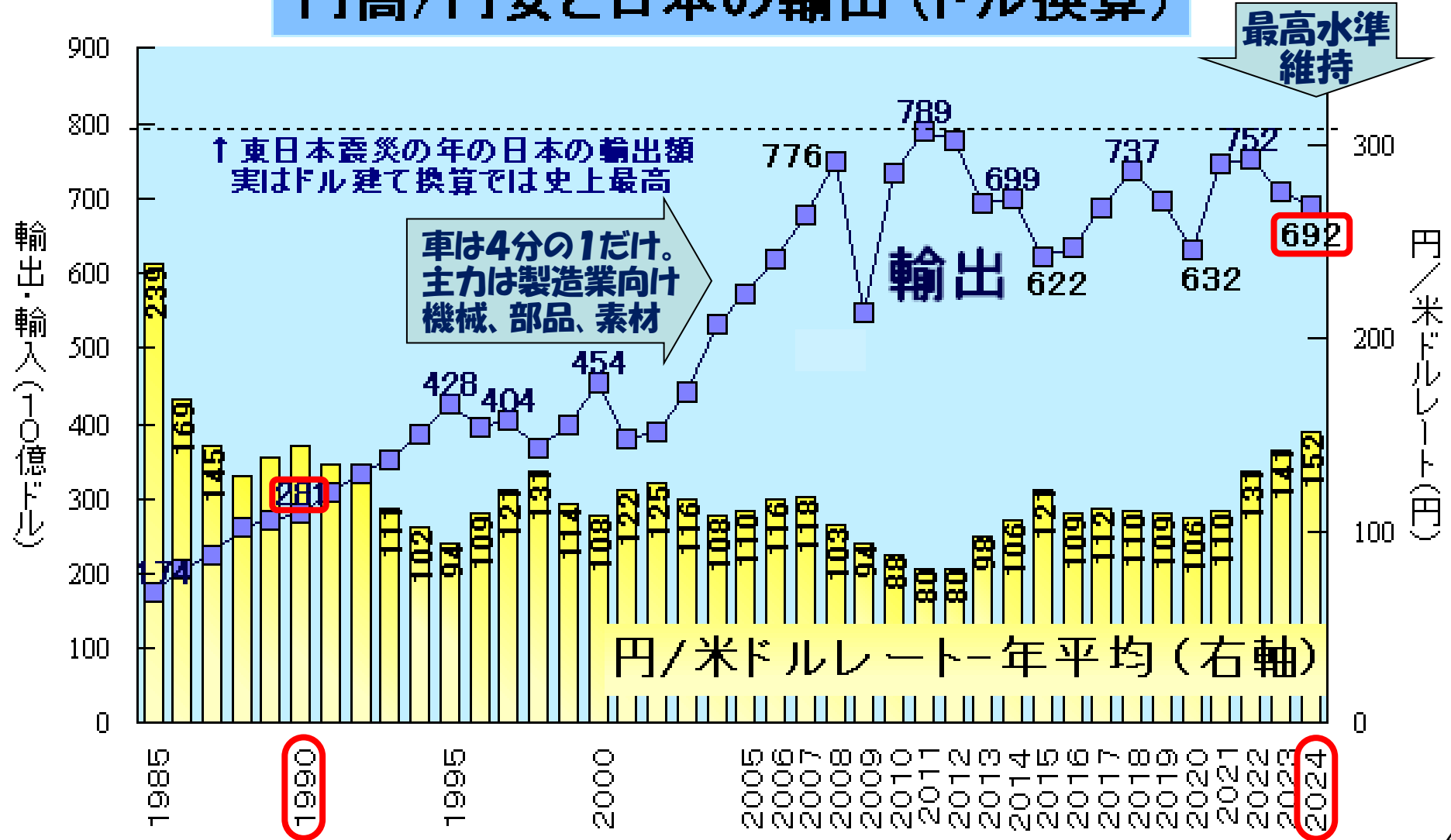
② 輸出は日本で生産され、税関を通過して海外に売られた商品の額で、99%が(ハイテク)工業製品です

③ 海外移転した工場の売上は、輸出に入らなくなります

日本製品の輸出額は高位安定

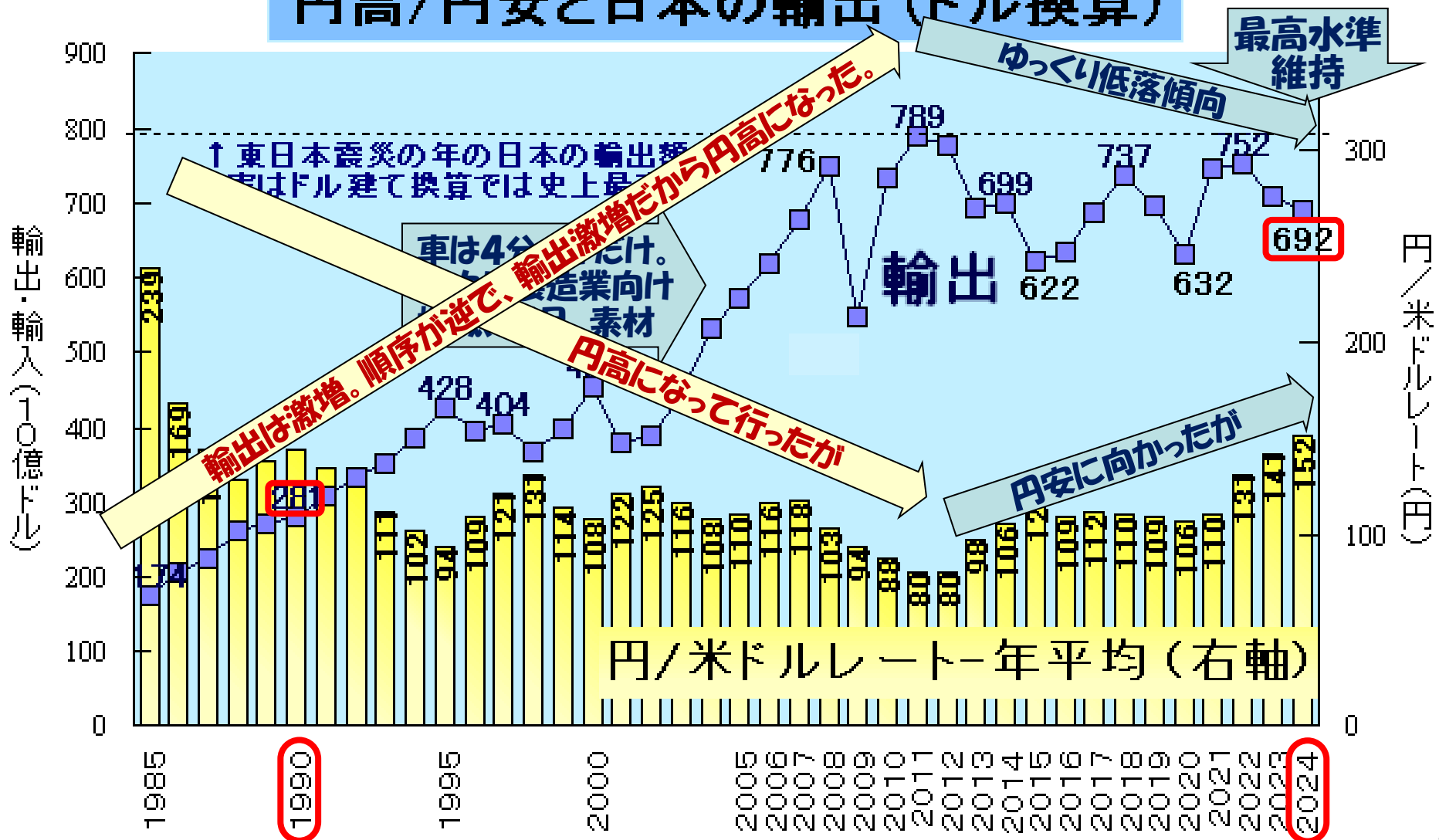
という事実を、誰も確かめず語らないガラパゴス日本

円高/円安と日本の輸出（ドル換算）



円高でも売れる＝円安でも増えない という事実を、誰も確かめず語らないガラパゴス日本

円高/円安と日本の輸出（ドル換算）

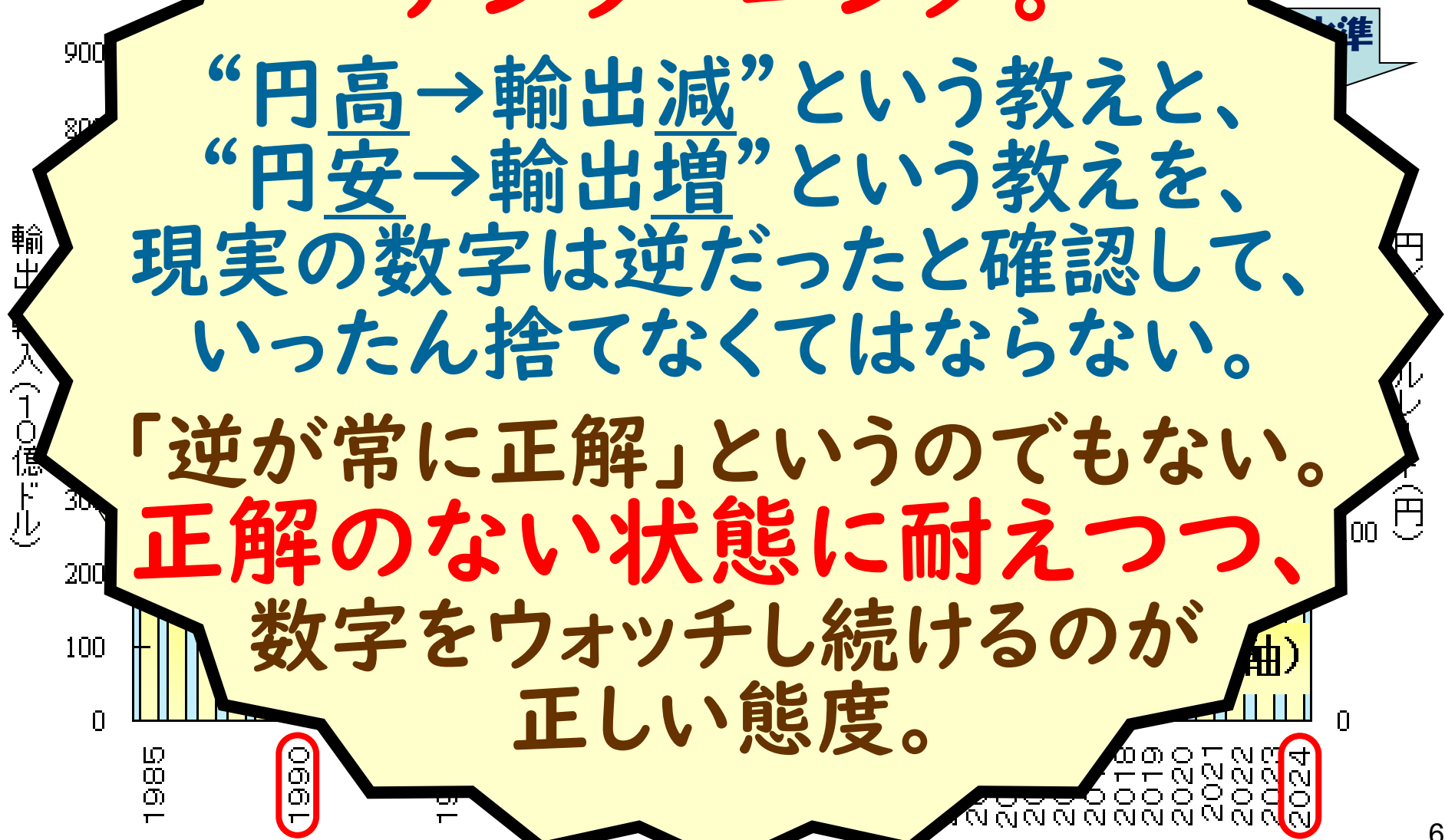


円高でも輸出も増えない
という事実

必要なのは
アンラーニング。

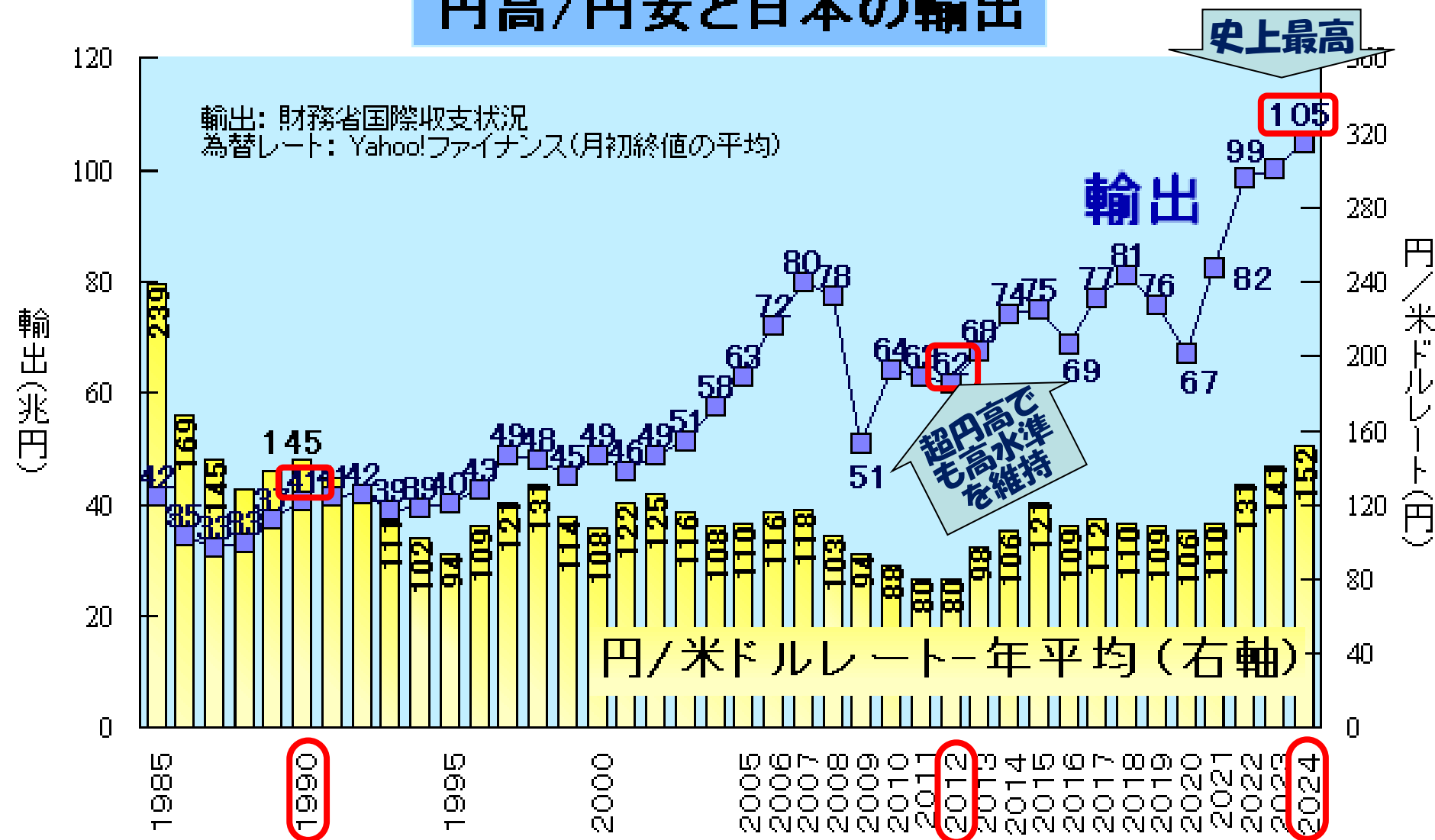
“円高→輸出減”という教えと、
“円安→輸出増”という教えを、
現実の数字は逆だったと確認して、
いったん捨てなくてはならない。

「逆が常に正解」というのでもない。
正解のない状態に耐えつつ、
数字をウォッチし続けるのが
正しい態度。



ちなみに円なら輸出額は史上最高 という事実を、誰も知らず語らないガラパゴス日本

円高/円安と日本の輸出



しかし輸入増で貿易赤字に転落

円高/円安と日本の輸出/輸入

うち2割強が
化石燃料

輸出入：財務省国際収支状況
為替レート：Yahoo!ファイナンス(月初終値の)

残りの多くは自損型輸入
(日本企業が日本向けの
安物を海外生産→輸入)

これは、地域製だった雑貨
類を、海外での大量生産品
に切り替えてしまった結果。

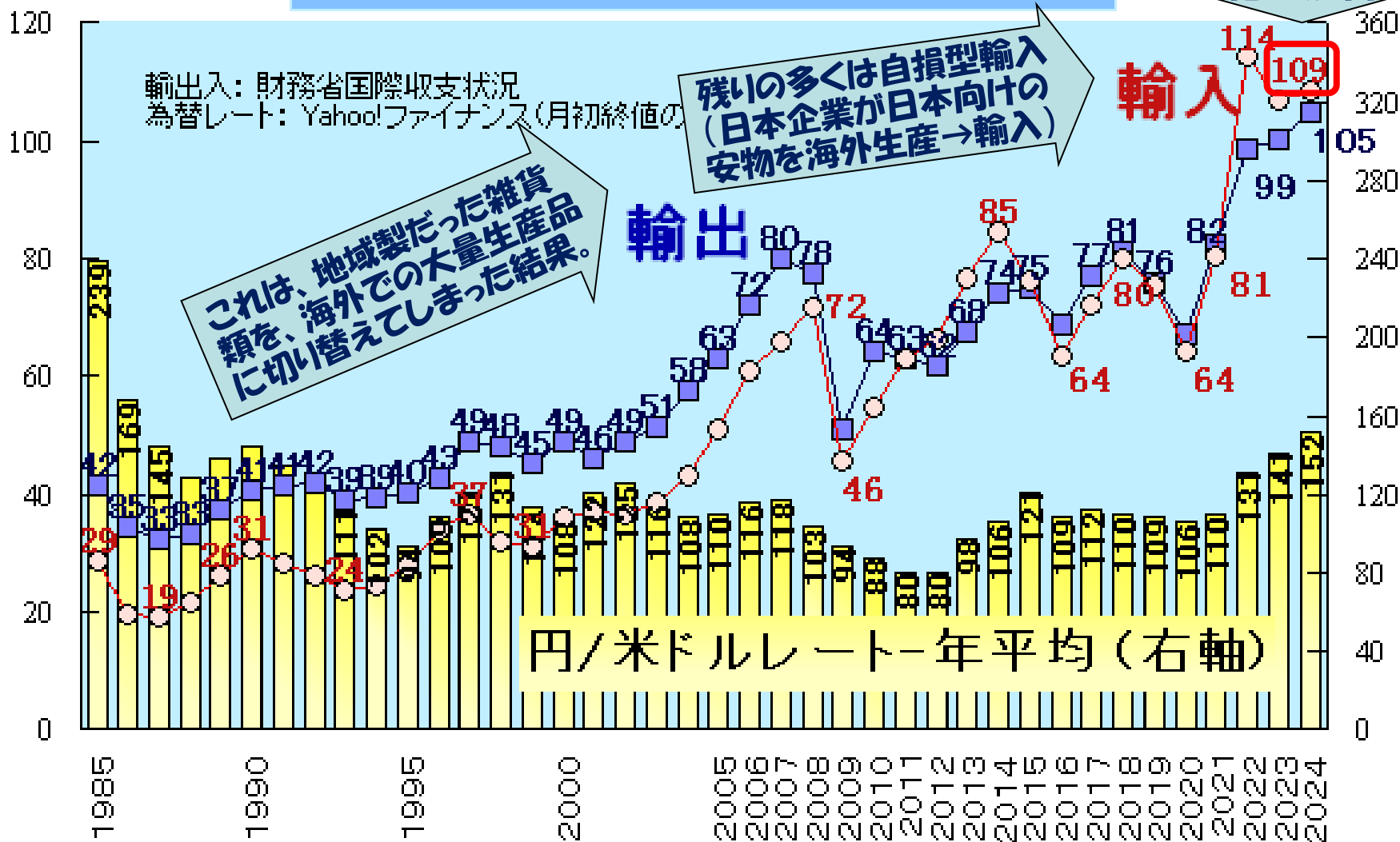
輸入

輸出

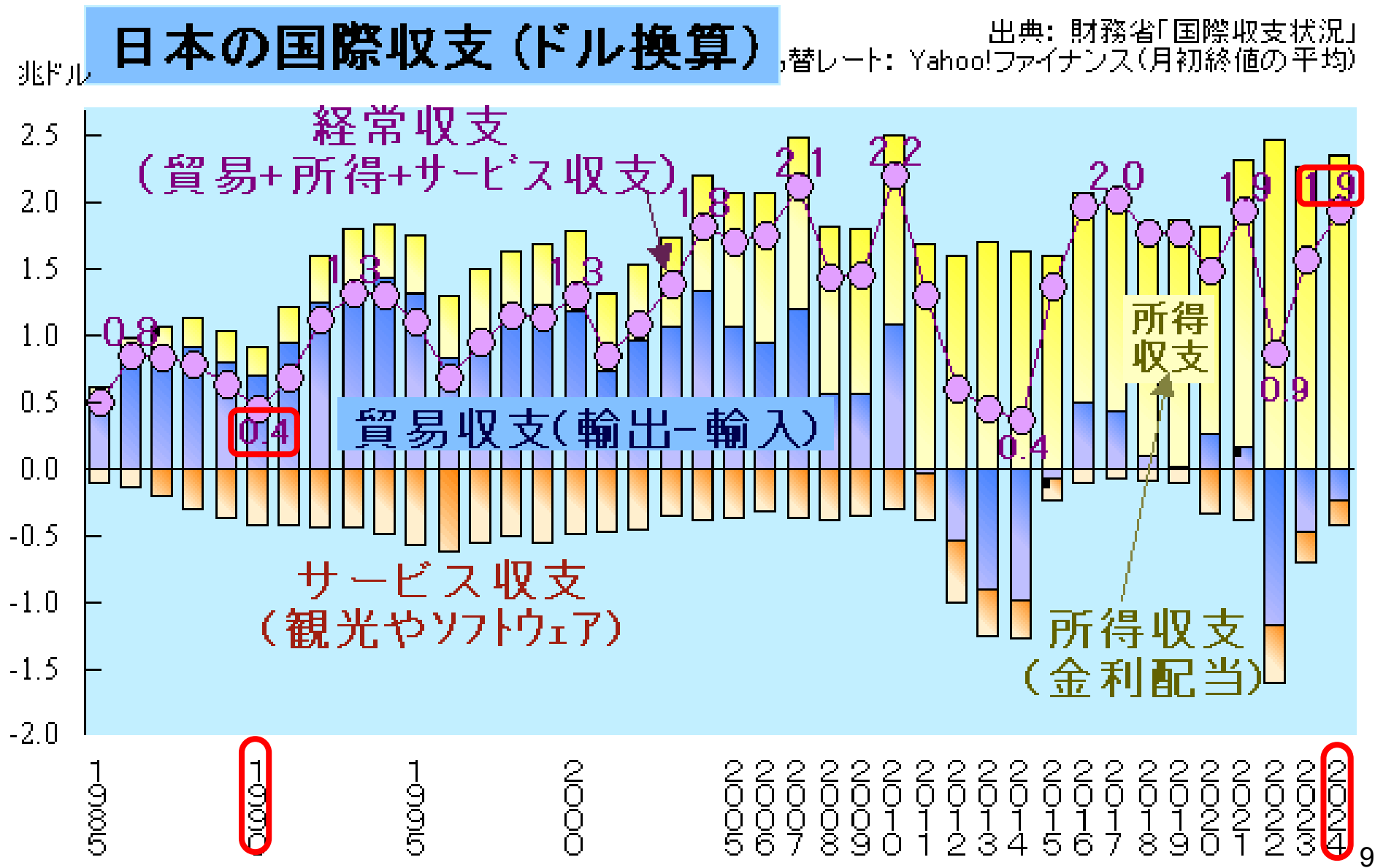
円/米ドルレート-年平均(右軸)

輸出・輸入(兆円)

円/米ドルレート(円)



貿易赤字でも**経常収支黒字**→本来なら円高

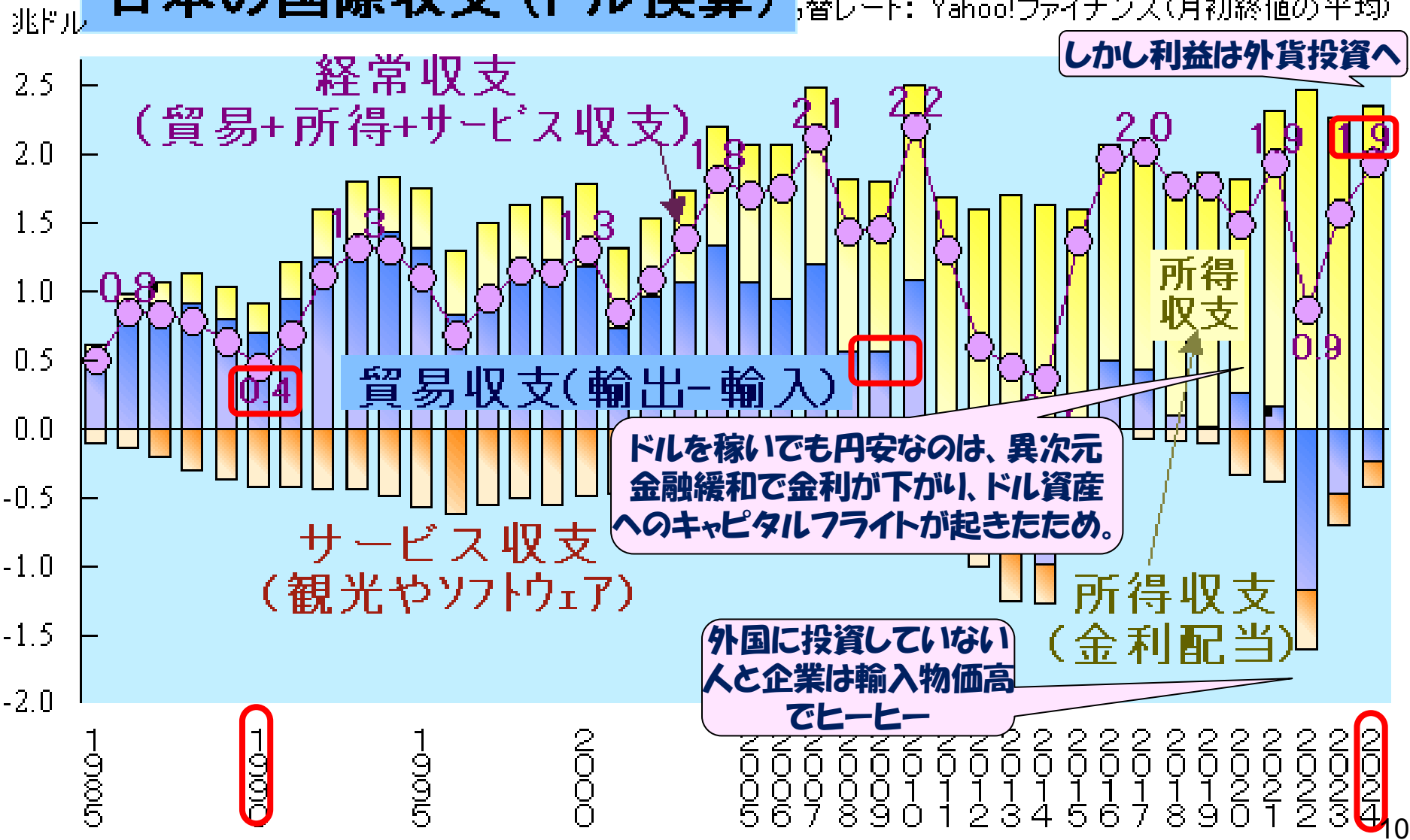


貿易赤字でも**経常収支黒字**→本来なら円高

外国に投資した人と企業は金利配当でウハウハ

出典：財務省「国際収支状況」
替レート：Yahoo!ファイナンス(月初終値の平均)

日本の国際収支 (ドル換算)



新しい地方経済・生活環境創生のための ファクトチェック② 日本のGDP

日米の経済力(1人当たり名目GDP-\$)
に差がつき始めた転換点は？

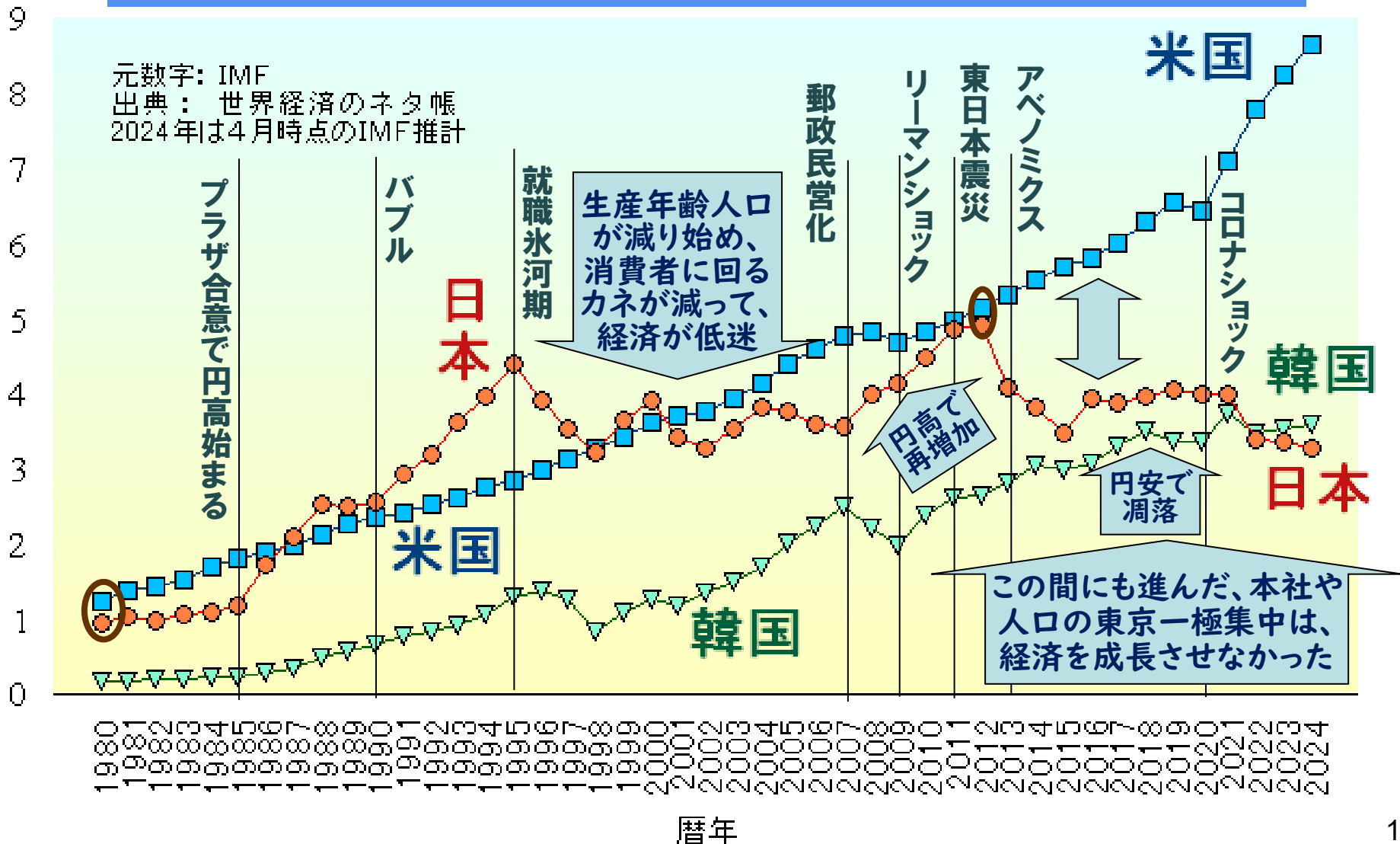
@IMF

- × 80年代：日米貿易摩擦→日本叩き
- × 1992年：バブル崩壊→就職氷河期
- × 2007年：小泉改革→郵政民営化
- × 2011年：民主党政権→東日本震災
- ⑤ 2013年：アベノミクス→異次元緩和

ファクトチェック② 日本のGDP

万ドル

名目GDP(米ドル・人口1人当たり)の推移

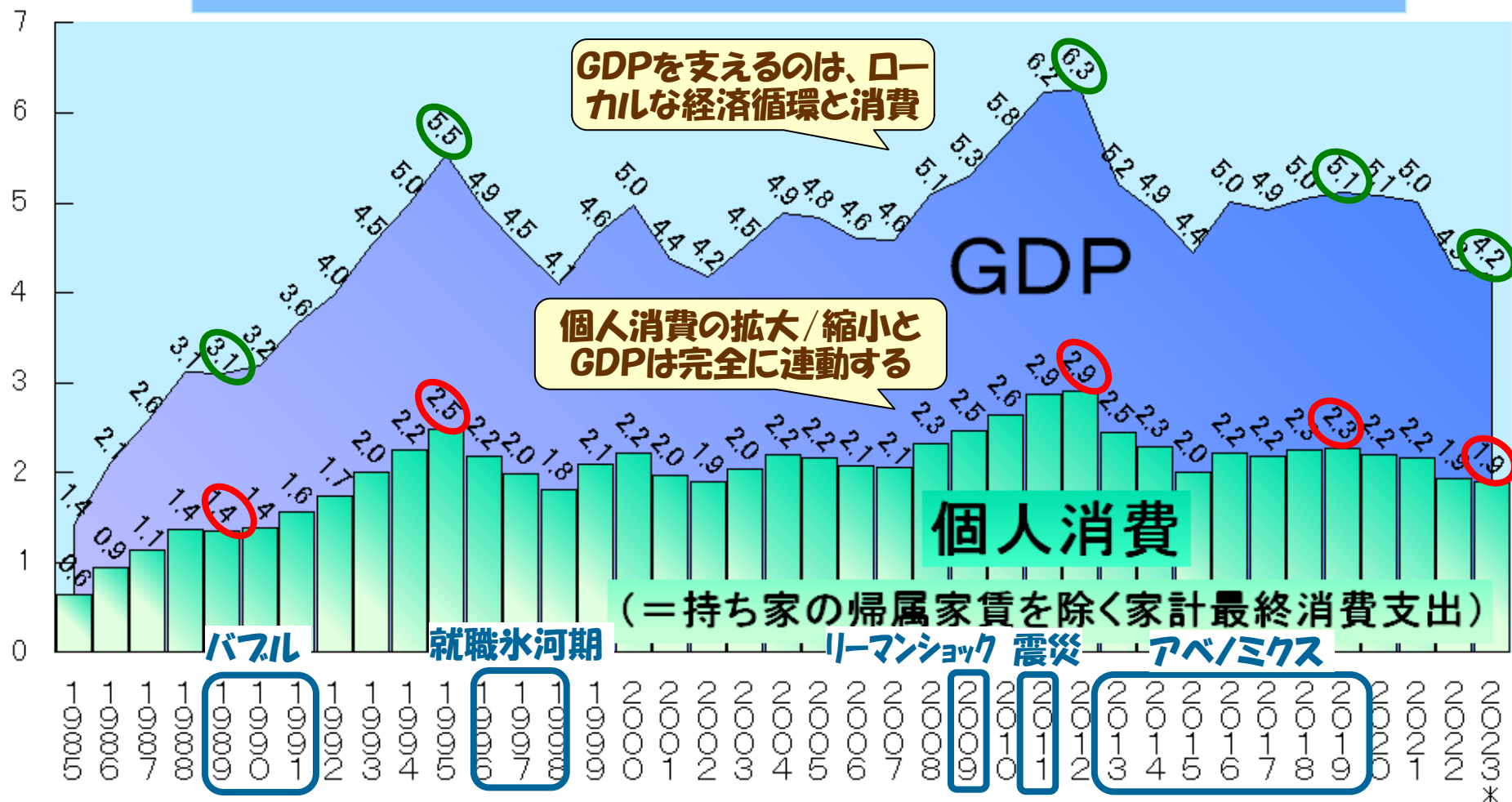


世界標準(ドルベース)で凋落する日本

ドルで見れば(=世界から見れば)最盛期は野田政権時代

GDPと個人消費の長期推移(名目値)-ドル換算

兆ドル



↑ 暦年

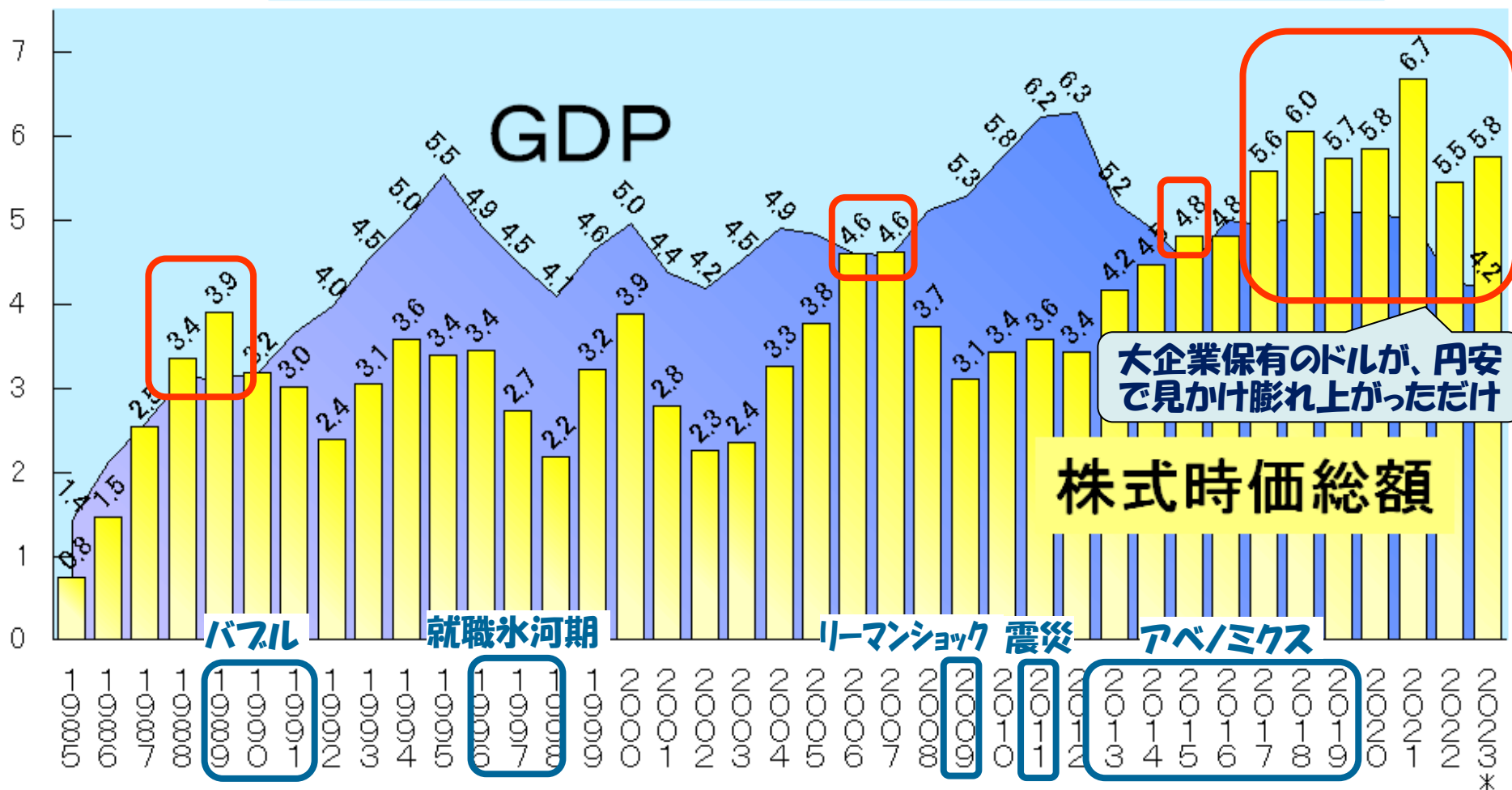
出典: 内閣府国民経済計算(2015年基準) ※1985-1993年は簡易遡及値、2022年は2次速報値
各年の数字を、その年の各月末の為替レートで、米ドルに換算

GDPと株価が逆の動きをする日本

「株価>名目GDPならバブル」とのバフェット指数に注意！

兆ドル

株価とGDPの長期推移（名目値）-ドル換算



個人消費：内閣府国民経済計算（2015年基準） ※1985－1993年は簡易遡及値、2023年は2次速報値
株式時価総額：日本取引所グループ統計（新興市場含む全上場市場の合計）より作成。各月末値の年平均
各年の数字を、その年の各月末の為替レートで、米ドルに換算

ファクトチェック③ ライバル国

日本が経常収支赤字の相手は？

23年10月～24年9月 ©財務省国際収支状況

- ① 対 米国
- ② 対 中国+香港
- ③ 対 台湾
- ④ 対 インド
- ⑤ 対 ドイツ
- ⑥ 対 イタリア
- ⑦ 対 スイス

経常収支とは、輸出－輸入
のほか、金利配当、観光、
ソフト代金(デジタル赤字)、
著作権料などを加えた数字

ちなみに、化石燃料産出国
に対しては大赤字

対中東 △10兆円

対豪州 △3兆円

対 インドネシア+マレーシア+
ベトナム+フィリピンで△4兆円

ファクトチェック③ ライバル国

日本が経常収支赤字の相手は？

23年10月～24年9月 ©財務省国際収支状況

お得意様トッパ
日本の黒字は
22兆円/年

お得意様第2号
日本の黒字は
4.3兆円/年

お得意様第5号
日本の黒字は
3.7兆円/年

お得意様第7号
日本の黒字は
2.6兆円/年

お得意様第11号
日本の黒字は
0.9兆円/年

米国

中国+香港

台湾

インド

ドイツ

対 イタリア

対 スイス

➡ 黒字相手3位はオランダ 3.9兆円

同じく3位はケイマン諸島 3.9兆円

➡ 黒字相手6位は英国

➡ 黒字相手8位は韓国

工業国相手だと日本は、機械・ハイテク
部品・高機能素材を売って、大黒字

➡ 黒字相手9位はメキシコ

➡ 黒字相手10位はシンガポール

ブランド衣料品・工芸品・食加工品

➡ パスタとオリーブオイル

薬品と手作り時計

➡ 最低月給が40万円以上

日本が
常に
赤字

日本が
常に
赤字

ファクトチェック③ ライバル国

日本が経常収支で赤字の相手は？

23年10月～24年9月 ©財務省国際収支状況

お得意様トッパ

日本の黒字は
22兆円/年

お得意様第2号

日本の黒字は
4.3兆円/年

お得意様第5号

日本の黒字は
3.7兆円/年

お得意様第7号

日本の黒字は
2.6兆円/年

お得意様第11号

日本の黒字は
0.9兆円/年

米国

中国+香港

台湾

インド

ドイツ

対 イタリア

対 スイス

➡ 黒字相手3位はオランダ 3.9兆円

同じく3位はケイマン諸島 3.9兆円

➡ 黒字相手6位は英国

➡ 黒字相手8位は韓国

工業国相手だと日本は、機械・ハイテク
部品・高機能素材を売って、大黒字

➡ 黒字相手9位はメキシコ

➡ 黒字相手10位はシンガポール

最大都市圏ミラノが
福岡程度の大きさ

総人口6千万人

最大都市圏チューリッヒが
熊本程度の大きさ

総人口8百万人

日本が
常に
赤字

日本が
常に
赤字

ファクトリーメンタル国

日本は、中韓台からも手は？

日本は、中韓台からも
米英独からも儲け続けている。

そんな日本が貢ぐ相手の
スイスとイタリアの特長は???

① 観光立国、手作りブランド立国

② 高い人件費、短い労働時間

③ 大都市がなく、農山村にこそ
産業力、経済力がある

④ 地域意識がとても強く
地産地消が当たり前

対
対

スイス

6千万人

総人口8百万人

国際収支状況

3.9兆円

9兆円

国

イテク
数字

キシル
ボール

工品
シル

お得意様
日本の黒
22兆円

お得意
日本の
4.3兆

お得意
日本の
3.7兆

お得意
日本の
2.6兆

お得意様
日本の黒
0.9兆円

日本が
常に赤字
日本が
常に赤字

ファクトチェック④ 高齢化

後期高齢者（75歳以上、外国人居住者含む）は
1975年には280万人。

2024年元日には何万人？

× その3倍の800万人

× その5倍の1400万人

③ その7倍の2000万人

75歳以上が増えれば、年金・医療・介護の負担が増える

団塊世代の加齢の結果の7倍増という驚異の増加に
対応できている結果、平均寿命は延び続けている

ファクトチェック⑤ 少子化

乳幼児（0～4歳、外国人居住者含む）は1975年には1000万人。2024年元旦には？

✕ その3分の2の670万人

✕ その4分の2の500万人

③ その5分の2の410万人

日本の0～9歳は 2024年元旦現在 900万人。
それに対し20～29歳は1280万人、50～59歳は1810万人いる。

従って20代は、20年後には900万人になる（←1280万人から3割減）
50代は、30年後には1280万人にない（←1810万人から3割減）
50年後には900万人になる（←1810万人から半減）

ファクトチェック⑥ 都会・地方・過疎地

住民票数の増減(居住外国人含む)

2019→
2024年

総人口
増減率

15-44歳
の増減率

75歳以上
の増減率

0-4歳の
増減率

① 東京都

+1%

△3%

+12%

△16%

② 大阪府

△1%

△5%

+15%

△11%

③ 福岡市

+3%

△1%

+18%

△11%

④ 愛媛県

△5%

△12%

+9%

△21%

⑤ 大野市

△9%

△17%

△1%

△17%

⑥ 津南町

△10%

△16%

△10%

△16%

⑦ ^{うぶやま}産山村

△8%

±0%

△4%

+5%

半導体とは無関係の
熊本県の過疎農村

高齢化率4割超の518市町村
のうち、3町村で増加

同左518市町村のうち
339市町村で減少

同左518市町村のうち
22市町村で増加 21

ファクトチェック 過疎地

住民票数の増減

2019

勘違いしてませんか、
「都会の若者は増えている」と。

4歳の
率

ところが数えてみると、東京でも、
大阪でも福岡でも、若者は減っています。
どんどん流れ込んでいるのに、なぜ？

それは「地元生まれ」が減っているから。
都会は田舎に比べてとても出生率が低く、
新たに15歳を超える地元生まれの子が
45歳を超える人の半分もいません。

都会に若者が集まるほど、
子どもが消えます。

+5%

⑦ 産山村
半導体とは無関係の
熊本県の過疎農村

⑥ 半導体
高齢化率

のうち、5%増

55%増 村で減少

同左518市町村のうち
22市町村で増加 22

ファクトチェック 過疎地

住民票数の増減

2019

勘違いしてませんか、
「田舎は高齢者が増加中」と。

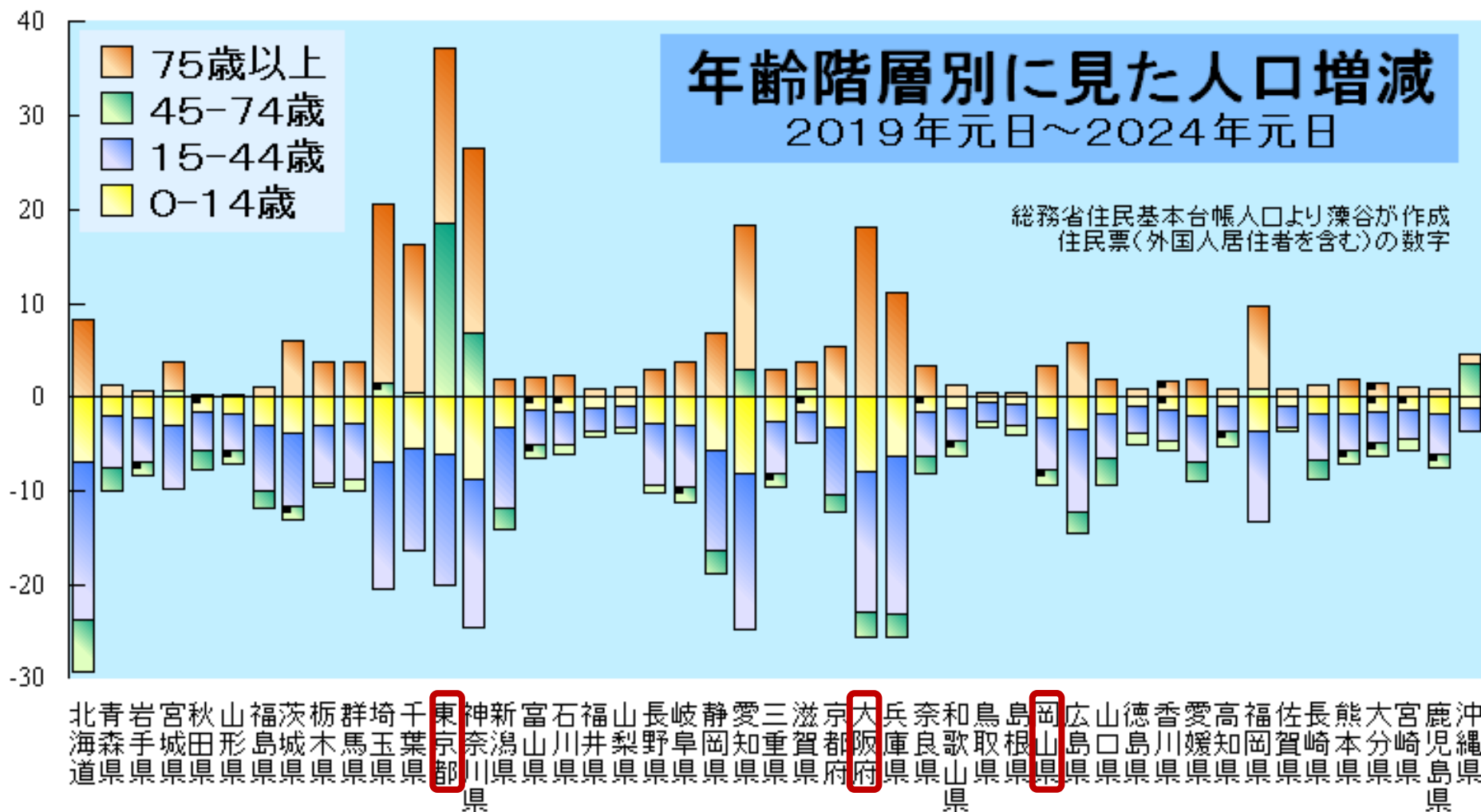
4歳の
率

① ところが数えてみると、過疎地ではもう
75歳以上の人の数は減り始めています。
反対に都会では75歳以上がまだ急増中。

都会では、田舎から集まり続けた若者が
続々75歳を越え、医療や介護がピンチ。
⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲 㽳 㽴 㽵 㽶 㽷 㽸 㽹 㽺 㽻 㽼 㽽 㽾 㽿 㿀 㿁 㿂 㿃 㿄 㿅 㿆 㿇 㿈 㿉 㿊 㿋 㿌 㿍 㿎 㿏 㿐 㿑 㿒 㿓 㿔 㿕 㿖 㿗 㿘 㿙

都会の人口増＝後期高齢者の増加

万人



人口増加＝若者の増加ではなく、都会で高齢者が激増中
→ 45-74歳(緑)が増加の都県は30年後も高齢者が増加₂₄

2050年の日本はどうなっている？

✕ 過疎地は消滅に向かい、
都会だけが栄えている

② 地方の若者が減り過ぎて都会への流入も減り
都会も消滅に向かう

③ 過疎地から先に高齢者が増えなくなり、
若者を受け入れる一部の過疎地は
子どもが再増加して、都会
より先に再生に向かう

ファクトチェック⑦世界の少子化と高齢化

国連人口部2024年推計予測 中位推計 **移民含む**

2025→50年

0～4歳

乳幼児
増減率

15～
44歳

若者
増減率

75歳以上

後期高
齢者
増減率

① 日本	<u>△3%</u>	<u>△19%</u>	<u>+14%</u>
② 中国	△16%	△34%	+2.9倍
③ ASEAN	△11%	△3%	+2.8倍
④ インド	△16%	△5%	+2.9倍
⑤ 西アジア	△3%	△1%	+3.0倍
⑥ 欧州	△4%	△13%	+57%
⑦ 南北米州	△10%	△6%	+2.2倍

イラク、イエメン
シリアを除く

2050年の世界はどうなっている？

✕ 日本や中国はかなり衰え、
インドや米国が栄えている

② 世界中で少子化が始まり、高齢者は激増し、
各国が日本を追って衰える

③ 世界に先駆けて高齢者が減少に転じる
日本の地方の一部が、子どもの
再増加を実現し、一足先に
再生に向かう

新しい地方経済・生活環境創生のための ファクトチェック⑧ 東京の都市圏人口

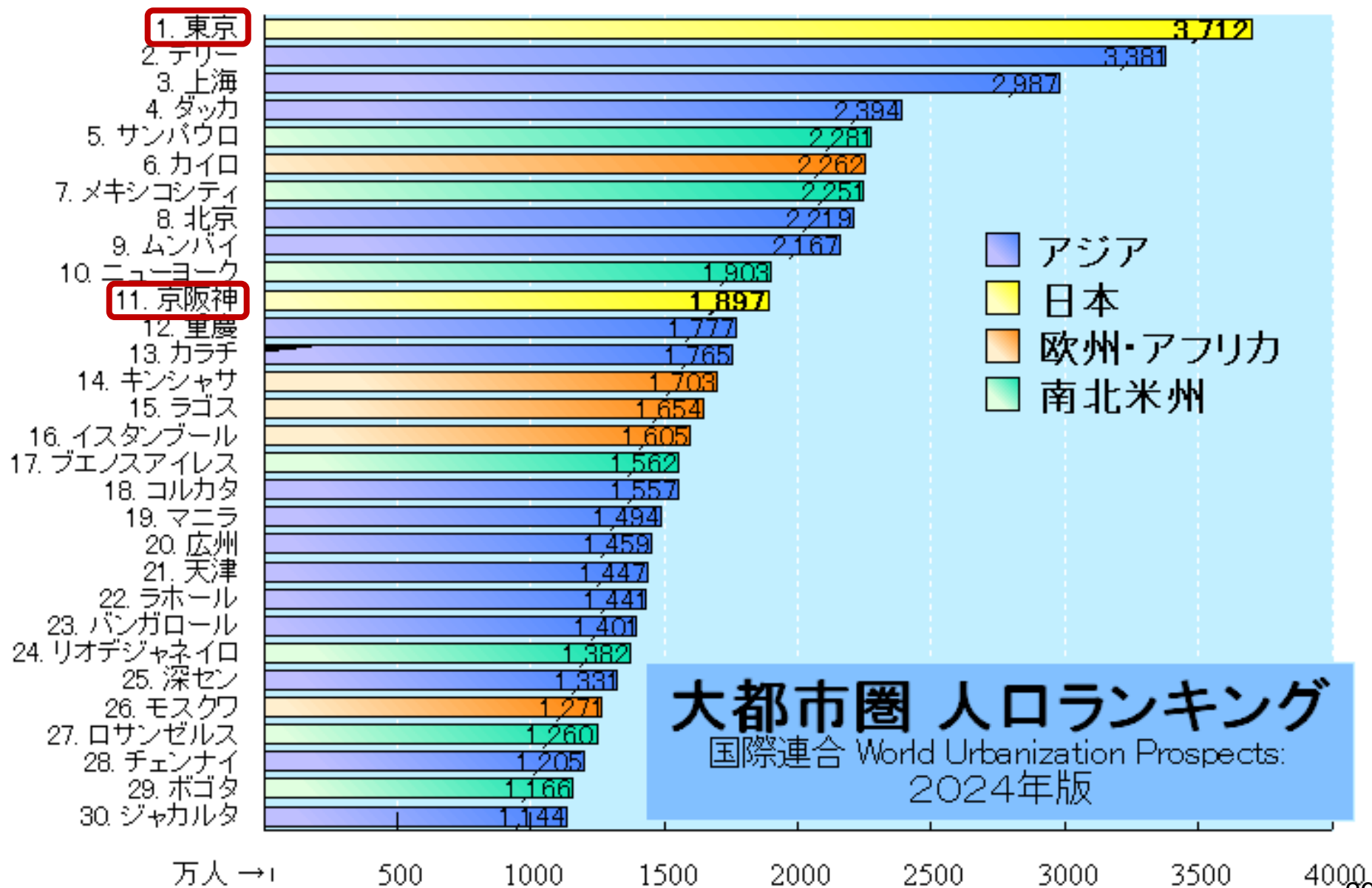
行政界を超えて、通勤通学などで
一体化した都市圏の人口規模を、
途上国含めて単純比較すると、
東京は世界で何番目の大きさ？

× 20位台

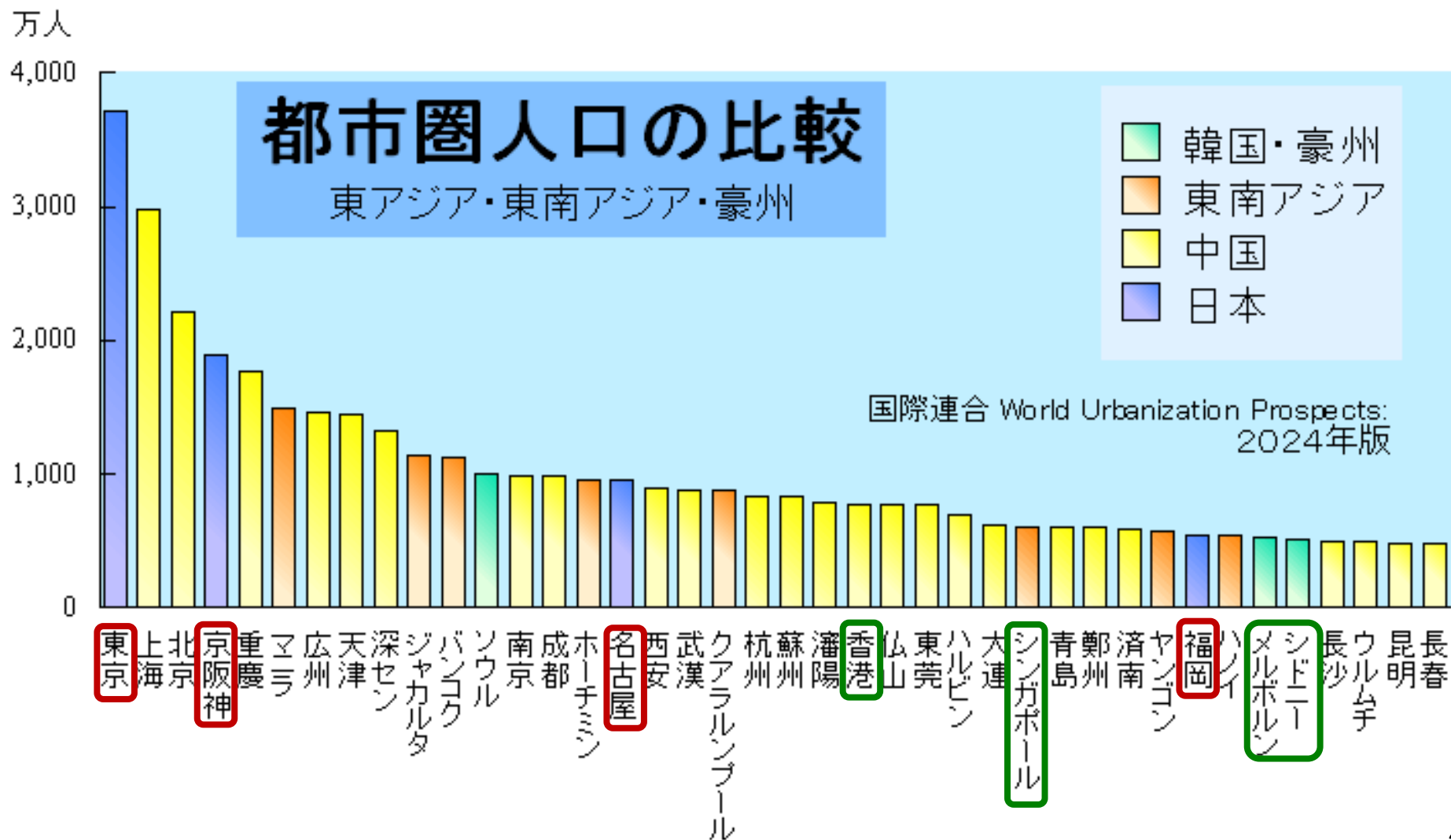
× 10位台

③ 最大

東京は人口も経済規模も世界最大

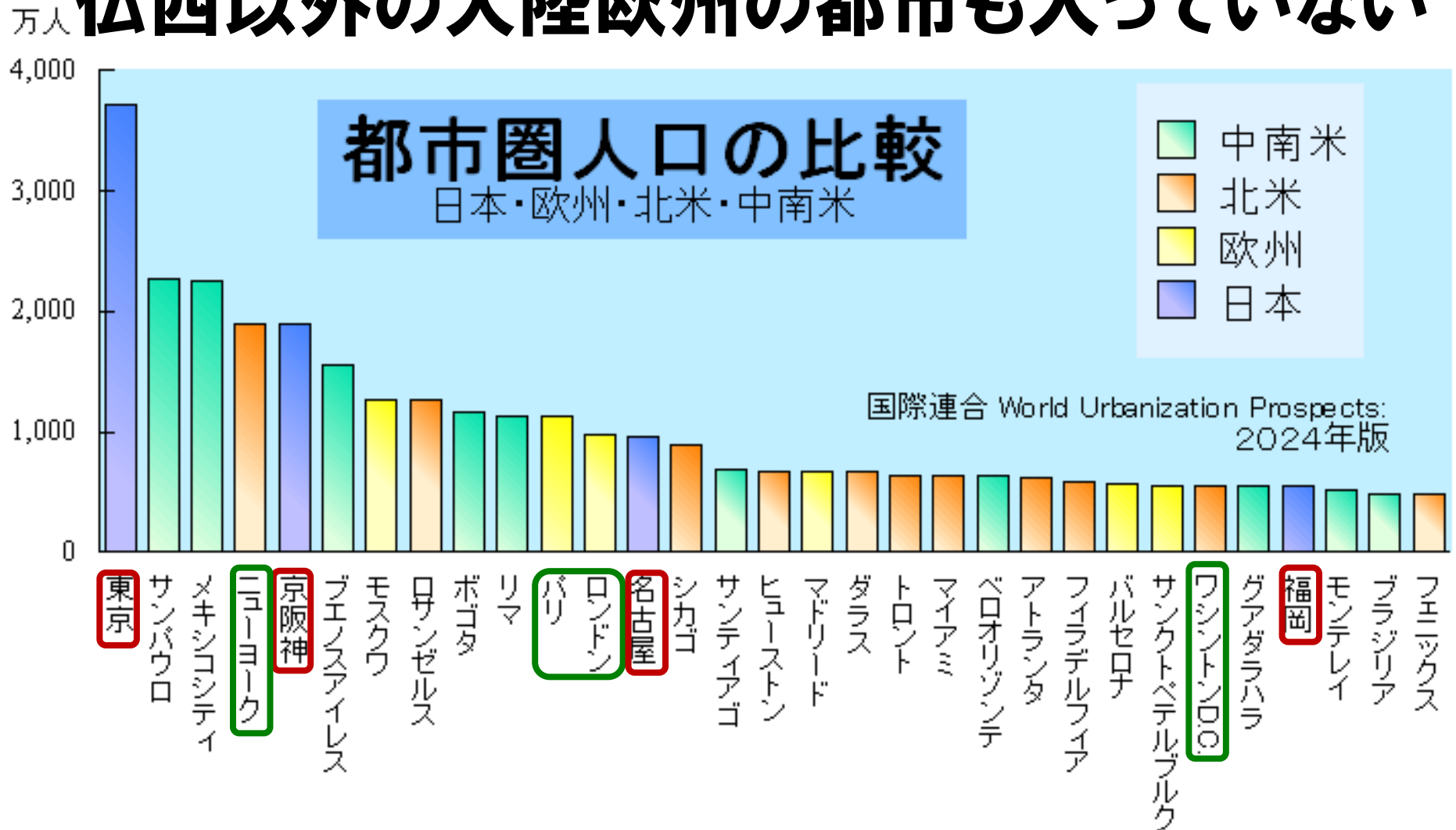


中国やASEANは一極集中ではない 競争力最強のシンガポールは、福岡と同規模



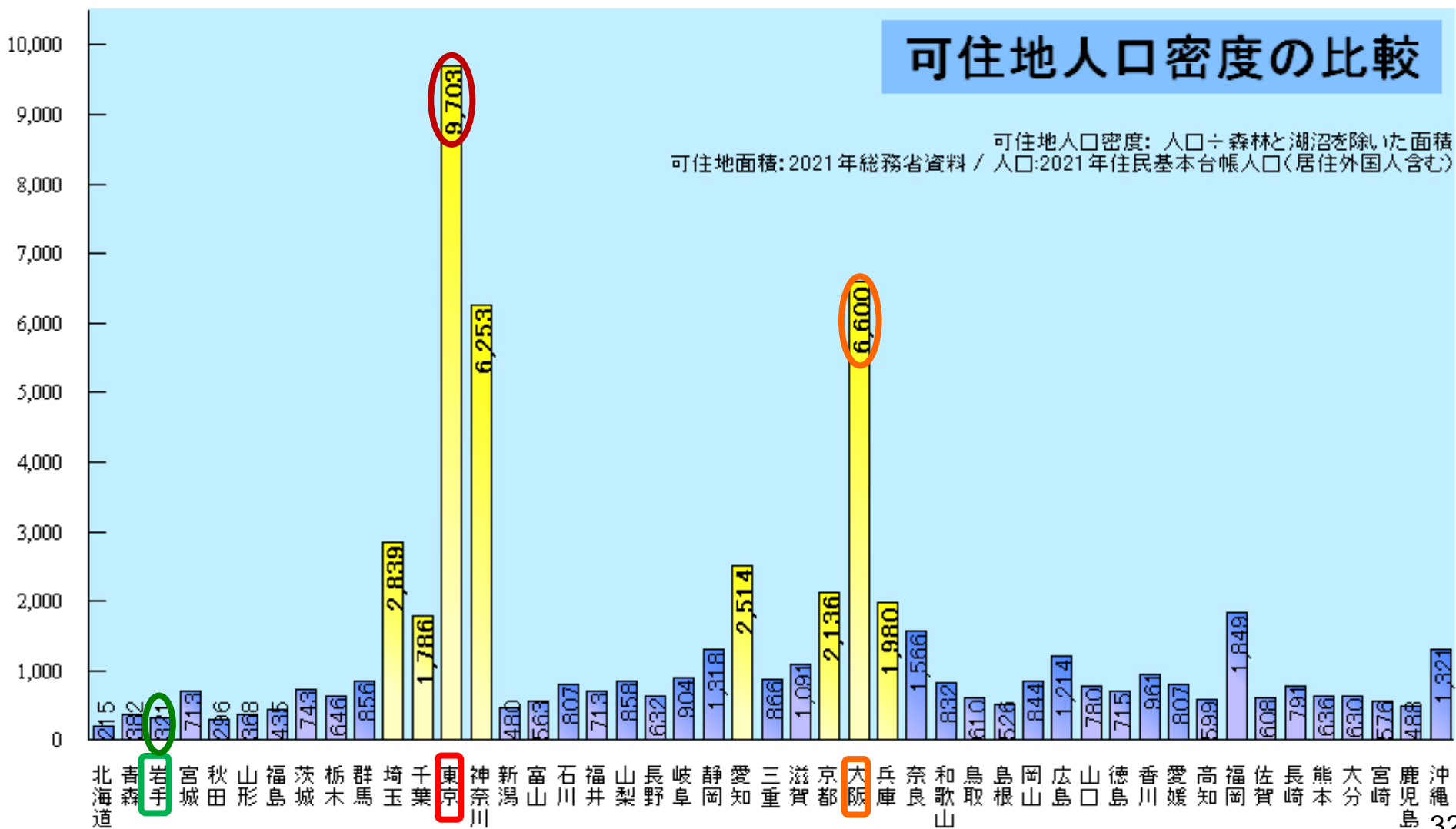
欧米はなおのこと一極集中ではない

都市圏規模100位までには、GAFAの拠点も 仏西以外の大陸欧州の都市も入っていない



しかしどうやっても日本の人口は減る。 人がまばらな田舎は消滅する…？

人／平方キロ



ファクトチェック⑨ 地方の可住地人口密度

山地と湖沼を除いた面積（農地含む）で人口を割ると、岩手には東京の30分の1の320人しか住んでいない。
世界の国の中で、そんな岩手と同じ密度感なのは…？

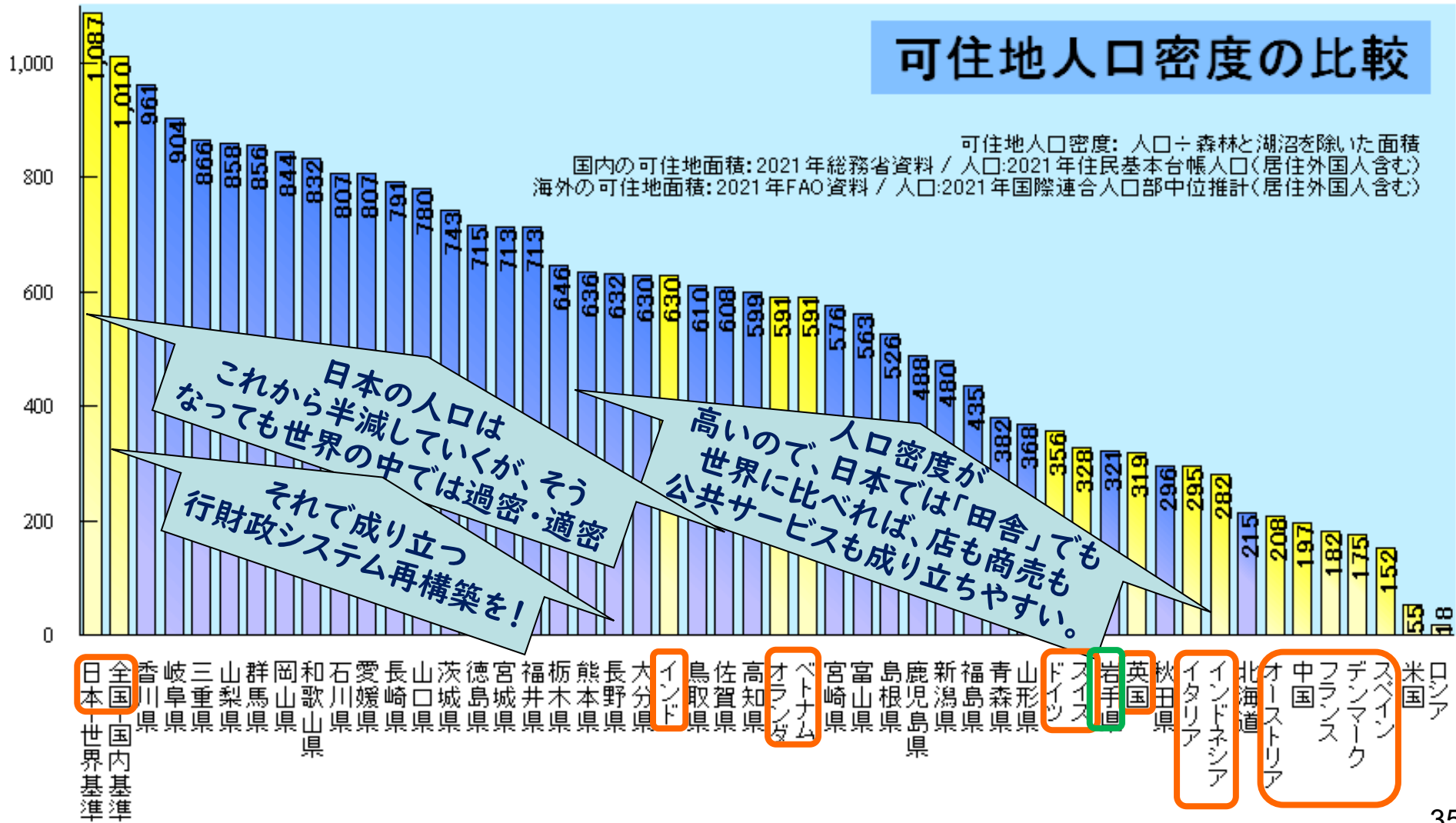
① 英国	319人	ロンドンを 含む数字
× イタリア	295人	岩手の 9割
× フランス	182人	岩手の 半分強
× 米国	55人	岩手の 2割未満
× ニュージーランド	31人	岩手の 数%

人/平方呎



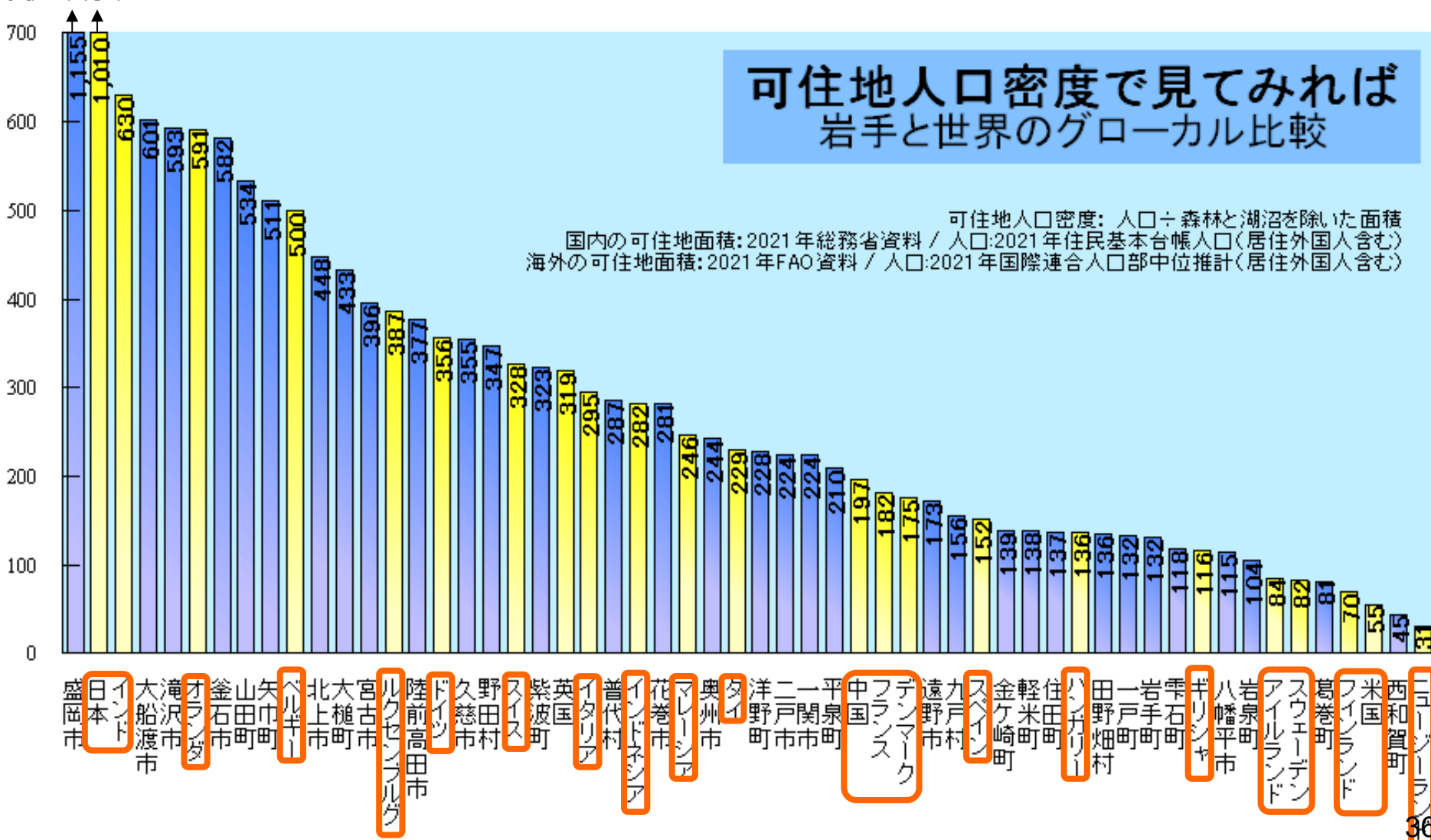
“過疎”は自然資本の豊かな“適疎” 人口が半減しても、地方は“適密”地帯

人／平方キロ



岩手県内の過疎地が非効率なら 先進国はどこも成り立たない…！

人／平方キロ



ファクトチェック⑩ 生活保護費÷人口

2014年

<http://area-info.jpn.org/SehoPerPop.html>

① 大阪市	118,000円
② 東京特別区平均	56,200円
③ 横浜市	36,800円
④ さいたま市	29,500円
⑤ 埼玉県秩父市	16,800円
⑥ 愛媛県西予市	12,300円
⑦ 岩手県奥州市	10,400円
⑧ 能登半島珠洲市	9,100円
⑨ 福井県大野市	7,900円
⑩ 新潟県十日町市(津南町東隣)	6,500円

都会は困窮する高齢者が多いのではないかな？

田舎は住居費が低く、自給、物々交換、贈与も都会より多く行われる

平成の大合併をした市では旧町村部分への県の負担が入っていない可能性がある。だが珠洲市は合併していない

エネルギー源でみた人類史五段階

① 狩猟採集時代 [石器時代～]

② 農耕時代 [弥生時代～]

- ← 太陽光を穀物に変え貯蔵するという技術革新で人口急増
- 貯蔵した穀物や農地を巡って戦争が起きるようになった

③ 工業時代-化石燃料前期 [戦後～]

- ← 化石燃料=太古の太陽光の濃縮物 で肉体労働を代替
- 人口が激増、しかし化石燃料は無尽蔵で、戦争は無用に
- 農耕従事者が激減、都会で書類を書く無産階級が激増

④ IT時代-化石燃料後期 [21世紀～]

- ← 頭脳労働もIT化され、都会で書類を書く仕事も衰退へ
- ← 地球環境の制約が明確になり、成長より継続が課題に

⑤ 里山資本主義時代-分散/小規模/連携の時代 [令和～]

- ← 再エネを小規模利用する技術が深化/CO2排出は限界
- 都会を出て、田舎で“部分自給”する生活が有利に

講師（藻谷）が期待する、日本の 地方の2050年は？

- ① 乳幼児が再び増え始める
- ② 農林漁業や工業など、現場のある仕事が、事務職よりも人気
- ③ 訪日客が田舎の隅々を訪れている
- ④ 学歴や偏差値の序列は消滅へ
- ⑤ 田舎でもプライバシーが尊重されるようになり
都会からの地方移住が普通になる

“バックキャストイング”で考える

- ① 自分が「こうしたい」と強く考える
「未来の出来事」、「こうあって欲しい」と願う未来の社会を、心に描く
- ② 手持ちの手段や、現実的なステップから、順を踏んで考えることはしない
- ③ そこで思い描いた未来から逆に振り返って、そこに行くため何をするか、何をしないか、を決めていく
- ④ 新たな事態が起きた場合も、未来から振り返って、今の対応を決める

“バックキャストिंग”の実例

- ① 戦後日本：平和産業の技術力で
国際社会の中で名誉ある地位を得る
- ② 大谷翔平：大リーグで二刀流をする
イチロー：野球の走攻守を極める
松井秀喜：チームを世界一にする
- ③ 日本サッカー協会：2050年までに
サッカーワールドカップで優勝する
- ④ 広島・長崎：最後の被爆地になる

番外(藻谷)：① 日本中・世界中を旅行できる仕事をする
② 少しでも多くの「事実」を知る立場になる
③ 間違った選択をする組織や社会を減らす

“バックホー”の実例

①

田舎で自然豊かに暮らし、
好きな時に都会や世界で遊ぶ、
楽しい未来は、誰でも手にできる。

②

生活費の高い都会か、窮屈な田舎か、
二者択一を迫られるのはおかしい。
自由でワクワクできる田舎を自分で作ろう。

生まれてから死ぬまで孤立しない地域を作り、
若者を戻し、出生をもう一度増やそう。

④

元気な若者と女性に走らせ
陰から助けよう！

番外(藻谷)

③

間違った選択をする組織や社会を減らす